

問四 ———— 線部②「ない」と同じ意味・用法のものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ごはんを残すなんてもったいない。
- イ 今日は一度も電話がかかってこない。
- ウ あれはきつと彼に違いない。
- エ この本は読みたくない。

問五 にあてはまる語句として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自己暗示
- イ 自己嫌悪
- ウ 自己矛盾
- エ 自己完結

問六 ———— 線部③「対話として成立しません」と筆者が考えているのはなぜか。解答欄にあてはまるように本文中の語句を用いて十八字以内で答えなさい。

対話の成立には () と考えているから

問七 ———— 線部④「大きな違い」とあるが、この違いを具体的に説明している一文を本文中から抜き出し、はじめの六字で答えなさい。

問八 「X」「Y」にあてはまる組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|-----|-------------|---|-------------|
| ア X | ダイアログとしての対話 | Y | ダイアログとしての対話 |
| イ X | モノログのおしゃべり | Y | ダイアログとしての対話 |
| ウ X | モノログのおしゃべり | Y | モノログのおしゃべり |
| エ X | ダイアログとしての対話 | Y | モノログのおしゃべり |

問九 次の文章は、——— 線部⑤「あなたにとつての対話という活動は、あなた自身がことばを使って自由に活動できる社会の形成のための重要なカギになる」についてまとめたものである。 i v にあてはまるように、() 内の指示にしたがって本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

あなたは、対話において i (十七字) 、コミュニティとしての社会の複数性、複雑さをともに引き受けている。それは、対話が ii (十四字) ではなく、 iii (十三字) と iv (十八字) との関係をつくるものだからだ。この v (六字) のための対話によって、あなたが社会の中で他者とともに生きることを学ぶという事は、個人がことばを使って自由に活動できる社会の形成への可能性につながっている。

二 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

私立千問学院^{せきけん}高校（千学）の吹奏楽部は、卒業生でかつての全国大会出場メンバーの不破瑛太郎をコーチに迎え、全国大会出場を目指している。瑛太郎は、[※]サックスパートの一年生である茶園基を部長に据え、部内の刷新を図り、吹奏楽部は西関東大会への出場権を手に入れた。西関東大会を前に、部内では出場メンバーを選ぶオーディションが行われ、サックスパートの[※]バートリーダーで三年生の越谷がメンバーから落選した。次の文章は、オーディション後、バートのミーティングを終えた越谷に、瑛太郎が話しかける場面である。

著作権者への配慮から

掲載を差し控えております

（額賀藩「風に恋う」）

- ※ サックス……木管楽器の一つ
- ※ バートリーダー……各楽器パートの責任者
- ※ 幸村……受験を理由にコンクール前に引退した三年生
- ※ 西関東……全日本吹奏楽コンクール西関東大会のこと
- ※ お姉さん……以前、基の姉が駅で倒れたのを、瑛太郎に助けってもらったことがあった
- ※ アクアアルタ……満潮により街の一部が水に浸かる現象。以前、瑛太郎は茶園に、高校生の時にアクアアルタをイメージして「沙風」のマーチを演奏していたと話したことがあった
- ※ ヴェネチア……イタリア共和国の北東部に位置する都市
- ※ 徳村……瑛太郎の高校時代の同級生
- ※ 三好先生……千問学院高校吹奏楽部の顧問
- ※ 森崎さん……高校時代の瑛太郎を取材した番組ディレクター
- ※ 玲於奈……基の幼なじみで、千問学院高校吹奏楽部の三年生
- ※ いつか……基が部長になったばかりの頃、二人で藤田商店に来たことがあった

問一 線部a～eのカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

問二 線部①「ミーティング中も考えましたから」とあるが、どのようなことを考えたのか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア オーディションに受かったメンバーに頑張つてほしいということ
- イ オーディションを受けずに、吹奏楽部を引退すること
- ウ 受験勉強をしないで、全日本を目指して吹奏楽部を続けること
- エ 西関東大会へ吹奏楽部の一員として応援に行くこと

問三——線部②「辞めなです」とあるが、このときの気持ちはどのような行動に表れているか。解答欄にあてはまるように、本文中の語句を用いて十字以内で答えなさい。

() という行動

問四——線部③「受験のせいでオーデイションに落ちたとは思ってないです」とあるが、何のせいでオーデイションに落ちたと思っているのか。解答欄にあてはまるように本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

() () のせい

問五 (A) (C) にあてはまる語として最も適切なものを次のア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア とぼとほ イ ぎらぎら ウ つらつら エ ちらちら

問六 X にあてはまる語として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 焦燥感 イ 絶望感 ウ 安心感 エ 高揚感

問七——線部④「瑛太郎はぎゅっと唇を引き結んだ」とあるが、このときの「瑛太郎」の心情を説明したものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 基の言葉を真剣に受け止めるつもりだったが、基が自分に対して得意げに話す様子を見て、見下されたように感じ、残念だと思っている
イ 基の言葉の真意がわからず立ちを覚えたが、基の幼い表情を見て、相手はまだ高校生なので感情的に注意するのは良くないと思っている
ウ 基の言葉が支離滅裂ですぐには理解できなかったが、基の動揺する様子に同情を覚え、時間をかけて自分なりに基の言葉を理解したいと思っている
エ 基の言葉が冗談程度にとらえ、軽く流そうと考えていたが、基の真剣な様子に気づき、その言葉を最後まで受け止めようと思っている

問八——線部⑤「胸の奥から笑いが込み上げてくる」とあるが、その理由として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 将来に対する自分の迷いを見透かされ、腹が立ったから
イ 茶園の、自分に対する熱い思いが詰まった言葉に感動したから
ウ 何も知らない茶園がわかったような口をきき、あきれたから
エ 親の新婚旅行の話をしてしまい、恥ずかしく思ったから

問九 次の文は、——線部⑥「そういうこと」について説明したものである。 [i] は、あとのア～エから最も適切なものを選び、 [ii] は () 内の指示にしたがって本文中の言葉を用いて答えなさい。

「そういうこと」とは、 [i] が、ノートを書くのは [ii] (十五字以内) と思っているとということ指している。

ア 越谷 イ 茶園 ウ 瑛太郎 エ 藤田さん

問十

[Y] にあてはまるものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 全日本で金賞を取ります
- イ 学校の先生を目指します
- ウ 両親に会いに行きます
- エ 音楽を諦めます

問十一 次の文は、——

線部⑦「きっと、武者震いだ」と思った理由についてまとめたものである。 [i] [ii] にあてはまる言葉を、() 内の指示にしたがって本文中からそれぞれ抜き出さない。

瑛太郎は、母校で吹奏楽部のコーチを務めてはいるものの [i] (十六字) 状態にあると感じていたが、 [ii] (十一字) である茶園のまっすぐな言葉に励まされたから。

問十二 本文の表現についての説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 効果的な比喩表現や回想を織り交ぜることで、イメージを広げ、それぞれの登場人物の心の動きが臨場感豊かに描かれている
- イ 視点となる人物を固定し、その人物がそれぞれの登場人物との会話を通して、自分自身の内面と向き合い、変化していく様子が描かれている
- ウ 一人称による文体で物語が構成され、繰り返しの表現を用いることで、テンポの良い文体となり、物語の中に引き込む効果を發揮している
- エ 部活動に熱中する高校生の日常を丁寧に描くために、会話文を多用し、それぞれの視点で場面を描くことを通して、人物像が想像しやすいように工夫している

③ 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

この姫君のたまふこと、「人々の、花、蝶やと愛づるこそ、はかなくあやしけれ。人は、まことあり、[※]本地たづねたるこそ、心ばへをかしけれ」とて、よろづの虫の、[※]恐ろしげなるを取り集めて、「これが、成らむさまを見む」とて、さまざまなる籠箱[※]どもに入れさせ給ふ。中にも「烏毛虫[※]の、心深きさましたるこそ心にくけれ」とて、明け暮れは、耳はさみをして、^③手のうらに添へふせてまほり給ふ。

若き人々は^aおち惑ひければ、[※]男の童[※]の、ものおちせず、いふかひなきを召し寄せて、箱の虫どもを取らせ、名を問ひ聞き、いま新しきには名をつけて、^④興じ給ふ。

「人はすべて、つくろふところあるはわろし」とて、^⑤眉[※]さらに抜き給はず。菌黒[※]め、「さらにうるさし、きたなし」とてつけ給はず、いと白らかに笑みつつ、この虫どもを、朝夕[※]べに愛し給ふ。

(「堤中納言物語」)

※ 本地たづねたるこそ……本来の姿を追究してこそ

※ 籠箱……虫籠などに用いる箱

※ 烏毛虫……毛虫

※ 耳はさみ……女性が垂れ下がっている前髪をかき上げて、耳の後ろにはさむこと

※ 菌黒め……成人女性の化粧の一つで、歯を黒く染めること。「おはぐろ」

問一 線部 a 「おち惑ひ」・ b 「いふかひなき」をそれぞれ現代仮名づかに直しなさい。

問二 線部 ① 「あやしけれ」の意味として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 純粹だ イ 風流だ ウ 不愛想だ エ 不思議だ

問三 線部 ② 「これ」が指している内容を本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問四 次の文は、線部 ③ 「手のうらに添へふせてまほり給ふ」を説明したものである。 i ・ ii にあてはまるものをあとのア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

i が ii を手のひらにのせてじっと見守りなさる。

- ア 姫君 イ 若き人々 ウ 男の童 エ 烏毛虫 オ 蝶

問五 線部 ④ 「新しき」のあとに省略されている語を、本文中から一字で抜き出しなさい。

問六

線部⑤「人はすべて、つくろふことあるはわろし」について、あとの各問いに答えなさい。

I 内容として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 人が作りだす美しさがすばらしいのだ

イ 人の美しさも毛虫のように成長していくものだ

ウ 人が見かけの美しさを大切に行っているのはよくない

エ 人の上品さは誰でも持っているものではない

II この主張を裏付ける本文中の登場人物の行動として、最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 男の童は、人々の命令を聞くこともせず、虫を恐れることもしなかった

イ 姫君は、眉を抜くこともせず、菌黒めをつけることもしなかった

ウ 若き人々は、虫を愛することもせず、姫君の命令を聞くこともしなかった

エ 人は、品がないので、花を愛することもせず、笑うこともしなかった

問七

『堤中納言物語』は平安時代に成立した作品である。平安時代の作品とその作品に関係の深い人物の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 『平家物語』——松尾芭蕉

イ 『万葉集』——大伴家持

ウ 『源氏物語』——紫式部

エ 『徒然草』——清少納言

令和三年度 奈良大学附属高等学校入学試験 解答用紙 (国語)

受験番号
氏名

問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
v 相互関係構築	エ	自分の言つて	対話の成立には	エ	イ	II 本来、聴衆と話している	A オ B ウ C ア	a 簡単 b 保証 c 納得 d うなが e けいせい
iv それぞれのバックグラウンド	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		
iii それぞれの相手の二だけ	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		
ii あなたと相手の異なる価値観を受け止め	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		
i 他者としての異なる価値観を受け止め	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		
問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
iii それぞれの相手の二だけ	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		
ii あなたと相手の異なる価値観を受け止め	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		
i 他者としての異なる価値観を受け止め	エ	自分の言つて	話題に関する他者の存在が必要である	エ	イ	I 「おしゃべり」はほとんど話している		

三の点

問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
イ	i 自分が何をやりたいのかわからない ii 何かを追い求める高校生	イ	ii 何かを成し遂げてからにした	イ	エ	ア	エ	A 今までだらだら練習してきた自分のせい	イ	a さわ b 突破 c 乾杯 d きぼう e 緊張	a おじさい b いかいなき
イ	i 自分が何をやりたいのかわからない ii 何かを追い求める高校生	イ	ii 何かを成し遂げてからにした	イ	エ	ア	エ	A 今までだらだら練習してきた自分のせい	イ	a さわ b 突破 c 乾杯 d きぼう e 緊張	a おじさい b いかいなき
イ	i 自分が何をやりたいのかわからない ii 何かを追い求める高校生	イ	ii 何かを成し遂げてからにした	イ	エ	ア	エ	A 今までだらだら練習してきた自分のせい	イ	a さわ b 突破 c 乾杯 d きぼう e 緊張	a おじさい b いかいなき

三の点

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
ウ	I ウ II イ	虫	ア	i よろづの虫の、恐ろしげなる	エ	a おじさい b いかいなき
ウ	I ウ II イ	虫	ア	i よろづの虫の、恐ろしげなる	エ	a おじさい b いかいなき
ウ	I ウ II イ	虫	ア	i よろづの虫の、恐ろしげなる	エ	a おじさい b いかいなき

合計点
